

# 自転車技術ニュース

日本自転車産業振興協会 技術研究所

1994. 1  
No. 137

## 新年のご挨拶

会長 飯塚 史郎

1994年の新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

ご高承のように、昨年の我が国経済は、公共投資、住宅投資が堅調であったものの、円高や国内景気の先行きに対する不透明感などから、個人消費、設備投資が低迷し、依然として厳しい状況にあったといわれております。

一方、自転車業界にありましても、国内需要では完成車、部品共に対前年に比較して微かながら上回ったものと推測されますものの、完成車の生産・出荷・輸出につきましては、いずれも4～5%下回った反面、輸入が35%もの大幅増を示し、国内需要の17%を占めるにまで至った模様で、大変厳しい状況であったと思います。唯一部品におきましては生産・出荷・輸出とともに10～20%の増となった見込みです。車種別の需要としましては全体的傾向として対前年を下回る傾向にあるなか、マウンテンバイク車のみが上回り、対前年の20%増となる模様です。

当協会としましては、このような状況を念頭におきつつ、平成6年度事業の策定をいたしております。

まず、国内需要の拡大策に重点を置き、特に消費者に対するPR活動を積極的に展開して、潜在需要の喚起を一層図りたいと考えております。

また、交通安全等につきまして、全国の小売業者各位のご協力を得て、毎年継続実施している自転車の安全点検、乗用安全指導等実践活動の拡充を図り、利用者の交通安全確保に努めます。

さらに、製造物責任法（PL法）の施行に向け、業界としての対応について調査研究及び企画立案を進める

所存であります。

卸・小売部門につきましては、経営改善調査研究や、小売店舗の専門店化、近代化等一部融資による体質の強化を引き続き図り、経営基盤の確立を推進する考えであります。

自転車の技術的研究につきましては、新素材・新技術を応用した競技用自転車の開発研究、通学用自転車の安全乗用研究並びにコンピュータによる自転車の最適設計システムの開発研究、技術情報通信ネットワークシステムの推進、車いす等福祉機器の開発研究などを行い、自転車等生産技術の向上発展を図りたいと考えております。

海外事業関係につきましては、海外生産国との交流を図り、相互の理解を深めるとともに、貿易秩序維持のための施策推進等国際協調の促進に努めるほか、内外情報資料の収集・提供等一連の事業活動を行い、海外市場の安定確保を図りたいと考えております。

また、放置・廃棄自転車対策や再資源化促進に対応し、その回収処理システムの構築を図るため、自治体等関係機関及び自転車業界と共に研究を重ね、具体化を図りたいと考えております。

この新しい年を迎えるにあたりまして、関係各位のご理解とご協力により、前述の諸施策と事業を積極的、かつ、強力に推進し、我が国自転車産業の振興発展に寄与したいと念ずるものであります。

地球にやさしく、誰からも愛される自転車の我が業界が、1994年において一段と輝かしい年となりますよう念願して、新年のご挨拶といたします。

恭賀新春

平成6年元旦

自振協 技術研究所